

1. 評価報告概要表

[認知症対応型共同生活介護用]

【評価実施概要】

事業所番号	1970800189
法人名	社会福祉法人泉茅会
事業所名	グループホームめぐみSINCE2004
所在地	〒 400-0118 甲斐市竜王644-5 電話番号 055-278-0881

評価機関名	山梨県社会福祉協議会		
所在地	山梨県甲府市北新1丁目2-12号		
訪問調査日	平成19年8月30日	評価確定日	平成19年10月12日

【情報提供票より】平成19年8月9日 事業所記入

(1) 組織概要

開設年月日	平成16年7月14日			
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9	人
職員数	8人	常勤	4人	非常勤 4人 常勤換算 2.77人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨造平屋 造り			
	1	階建ての	0 ~	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	43,000 円	その他の経費(月額)	43,000 円	
敷金	■有(100,000) □無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	■有(100,000) □無		有りの場合 償却の有無 ■有 □無	
食材料費	朝食	250 円	昼食	400 円
	夕食	350 円	おやつ	200 円
	または1日当たり 0 円			

(4) 利用者の概要 平成19年8月9日 現在

利用者人数	9 名	男性	2 名	女性	7 名
要介護1	4 名	要介護2	2 名		
要介護3	3 名	要介護4	0 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 83.6 歳	最低	78 歳	最高	96 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	三枝病院 堀田歯科医院
---------	-------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】作成日 平成19年9月10日

甲府盆地を見渡せる丘陵地帯にあるホーム周辺は田園が広がっていて、農作物、草花など季節の変化を肌で感じることができる環境にある。小中学校が近くにあり、生徒と挨拶をかわしたりする馴染みの関係ができています。自然採光を取り入れた明るい広々とした1ユニットのホームである。敷地内の併設施設の行事への参加や生活の中での交流が盛んである。系列病院が近くにあり、医療面でも大きな安心が得られている。入居者の尊厳を保ち、共同生活の中で趣味・嗜好にあわせ生活を支援するという理念でケアが実践されている。職員とは十分に信頼関係が樹立されており、入居者は自分でできる力を出し合い、いきいきとした生活を送ることができるホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 評価後、連絡帳で職員に知らせたり、事務所に掲示するなどし、課題を共有している。今まではケアのあり方は法人全体のものであったが、ホーム独自の方策はなにかを検討された。地域で安心して過ごすため、定例的に消防署・警察署・地区役員に連絡されている。保管管理が必要な物品の、管理方法を検討され、介護計画もセンター方式に変えるなど、常に課題の改善には前向きに取り組む姿勢が感じられた。
	②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 管理者及び職員は、サービス評価の意義や目的を良く理解している。外部評価は何回か受けているが、その結果を踏まえ、職員全員で改善や更なる質の向上に向けて取り組もうとする意欲がみられた。
重点項目	③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 2ヶ月に1回開催されている。開催については、現在のところ、創意と工夫を加えながらの開催である。会議の参加メンバーも家族会代表、利用者、地域代表者、自治体職員、施設長などであり、活動報告などが主であるが、推進会議を通して、法人全体のフェスタに参加し、自作の作品をバザーに出店したりしながら楽しみ、同時にホームの理解を深める活動にもなっている。
重点項目	④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 利用者の日々の暮らしぶりを伝える「たより」は3ヶ月に1回発行されていて家族にも好評である。また来所時に近況を知らせたり、積極的に家族とコミュニケーションをとって意見や要望の把握に努めている。苦情等の対応については、苦情・相談箱を設置して自由に意見を書いてほしい旨を来所時家族に伝えている。アンケートも実施し、課題については、職員会議で共有する改善に向けて仕組みがつけられている。
重点項目	⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 市主催の敬老会には全員で参加している。散歩の時近隣の方と挨拶を交わしたり、野菜や花の栽培について話をしたりしている。学校の生徒や、民生委員もホームを訪ねてくれたり、日常の挨拶を交わすなど馴染みの関係はできているが、自治会などの加入はしておらず、地域に出向き、地域の人が支えあう関係づくりについての構築に期待したい。

2. 調査報告書

事業所名：グループホームめぐみSINCEN2004

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事務所、ホーム内に掲示しており、目につきやすく職員は常に理念を念頭において、日々取り組んでいる。利用者本位の生活援助を確立している。住み慣れた地域の中で安心して暮らし続ける意義については、明示までには至っていない。	○	「住み慣れた地域のなかで安心して暮らし続ける意義について」を明示できる理念を作り上げて欲しい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者は、事務所に理念を掲示し、毎日目をどうすことを職員に伝えている。職員も常に理念を念頭にしており、日々の実践に取り組む姿勢が伺える。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	市主催の敬老会には全員で参加している。散歩の時、近隣の方と挨拶を交わしたり、特に、花や野菜の栽培は共通の話題である。学校の生徒、民生委員の方も定期的に訪れ楽しみである。自治会への加入はなく、地域の人々が支え合う関係づくりに至っていない。	○	地域に出て行き、ともに暮らす地域住民の一員として、地域で必要とされる活動や役割を担っていく方策を検討されたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	サービスの評価の意義や目的を全職員には定例職員会議等に伝えてある。自己評価内容、外部評価内容も職員会議で確認し、全員で意見交換をし、改善や更なる質の向上に向けて取り組んでいる熱意が感じられる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	隔月に定例的に開催している。利用者、家族会々長が出席しやすい午後に行っている。検討内容は、楽しい行事などから入るように心がけ意見が出しやすくする工夫をしている。ホームの行事にも推進委員さんの参加を呼びかけ、理解を深めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	行政としては、包括支援センターが主に相談窓口の場となっている。市の職員の方と利用者でハイキングをしたり、ボール投げなどする実際の活動や行事を通して実態を知っていただき、考え方や実態を共有している。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	3ヶ月一度たよりを発行して全家族に郵送している。現在の生活ぶりのスナップ写真は楽しみにされている。家族来訪時には声をかけ、利用者の状況のこと等をはなし、積極的に家族とコミュニケーションをとるようにしている。金銭出納簿の確認とサインをいただいている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会も結成されており、運営推進会議も家族会として参加していただいている。ご家族には、気軽に意見が出せれるよう、苦情意見箱が設置されている。職員は連絡ノートがあり、日常的に意見提案ができるようになっており、職員会議で検討し、改善している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	ここ1年、異動や離職は無い。 やむを得ない時は、利用者・家族への信頼関係を築くために、馴染みの職員が対応できるよう、早い段階からグループホームに適した人材を同法人内で確保し、異動を考慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職種に応じて、Gホーム協会等の研修に積極的に参加している。研修の報告は書類にしたりして、職員にわたしたり、読んでもらえるようにしている。法人グループ内で報告会が開催されている。研修は年間計画での位置づけがされていない。	○	限られた職員体制での研修参加は、実務に支障が来さないよう充分の配慮が必要である。研修機会を確保するため、十分に職員と話しあい、年間計画の中で研修を位置づけたり、研修内容の報告方法についても、全職員共有できる方法を検討されたい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内にGホーム連絡会が設置されている。会員の声で第1回会合が持たれた。各ホームの紹介、評価のこと、介護保険のことが話題になり、今後、地域の同業者と連携を持ち、日々の業務について、役立つ実践的な連絡会となるように考えている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	併設施設利用後の入居が多く、利用者同士、職員とも馴染みの関係が築かれている。新規利用者には、事業所を見学して頂いたり、スタッフが家庭を訪問したりしている。既利用者が迎え入れる役割をしてくれたりしている。信頼関係を築いて利用していただくよう配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者のこれまでの経験や生活史を理解している。日常生活をともに行ない、利用者同士の関係、利用者職員によりよい関係ができている。利用者が得意分野で力を発揮してもらうよう心がけている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者とともに生活することにより、日々の会話や表情や仕草から利用者の思いをくみ取るようにしている。また、家族にも情報を得たりしている。本人にとって何が一番なのか家族を交え検討し、プランに反映できるようにしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人・家族には日々の関わりあいのなかで、意見など聞き情報としている。定例モニタリング、アセスメント会議を実施している。サービス担当者会議を開催し、本人、家族、職員と話し合った意見等を反映し、介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の見直しは3ヶ月としている。月1回モニタリングをしている。職員の日々の関わりの中で、状態に変化が生じた時は、随時サービス担当者会議を開催し、対応方法を確認しあい、本人、家族と相談し、新たな計画を作成している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	併設の特別養護老人ホームと合同でレクを開催したり、買い物やかかりつけ医の受診支援の他墓参りや実家(他県)への里帰りについては家族と相談しながら実現にむけても支援している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	法人が経営する医療機関がホームに近い場所にあり、担当医が日頃ホームを訪れ利用者と関係を築いている。いつでも受診できたり、適切な医療が受けられる体制が整備されている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合については、ほとんどの利用者・家族は医師と相談の上、併設施設への入所を希望している。ホーム側も承知をしている。終末期に向けての対応については具体的な話し合いはされていない。	○	重度化と併せて終末期に向けても家族や医師との連携を深め、本人への最大のケアについて話し合い、支援につなげることを期待したい。緊急時関する指針・看取りに関する指針の整備も望まれる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入浴時、排泄時等周囲への配慮をしながら、さりげない介助に努めている。個人の記録、情報は取り扱いには十分に注意し、外部に漏らさないなどの個人情報保護については、入居時契約書で取り交わしている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切に、ゆったりと見守っている。その日の過ごし方についても本人の希望やペースに合わせている。役割や楽しみごとなど、職員が把握しており、場面づくりに支援しており、利用者のやる気を促している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	基本的にメニューはあるが希望も取り入れられる。利用者達が作った季節の野菜も使い、職員と一緒に調理をしている。職員と会話しながら食事をしている。好みの弁当を買い食べることも楽しみの一つになっている。個々におしぼりがあるのは衛生的で好感がもてる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	広い浴室で希望にあわせ毎日入浴ができる。見守りや一緒に入るなどして1人ひとりが安心してゆったり入浴出来るよう支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	毎日の調理をはじめ、野菜作り、絵画、合唱、読書など一人ひとりに役割や趣味を発揮できるよう支援することで自信につながる場面づくりをしている。習字は隣接のホームの方と一緒に先生から指導があり、大勢の方が参加しており、楽しみの一つになっている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	田園地帯であるので、本人の気分や希望に応じて、季節を肌で感じてもらい、心身の活性につなげるため、日常的な散歩をはじめ、買い物、ドライブ等に出掛けている。品選び、支払いは楽しみである。好みの弁当で公園での食事は季節感が味えるため支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	全職員が利用者一人ひとりの行動や外出のくせを把握しており、細心の気配りをしており、日中は鍵をかけていない。夜間のみかけるようにしている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回併設施設で合同で消防署の協力を得て訓練をしている。避難経路は足下の安全な玄関のみとなっているが、実際の災害を想定した場合、更に安全性の高い避難経路が必要であると思われる。	○	実際の災害場面を想定し、安全な避難経路の確保は利用者の安全確保につながると考えられる。居間からの避難経路を考慮し、早期実現に向けて検討されたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分の摂取状況は毎食後チェックして、記録している。月1回栄養委員会を開催し、希望メニューなどを取り入れて頂いたり、栄養バランスの配慮も併設施設の栄養士の助言もいただいている。また、制限食の利用者についても食が進むよう配慮されている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	対面式キッチンのあるリビングは、自然の光を天窓から取り入れてあり明るい。照明にもやさしさがあり、居心地よく過ごせるよう工夫がされている。居間にはテレビ・ソファ・観葉植物が置かれ、さらに畳スペースもあり、ゆったりと過ごせる居場所がつけられていた。壁には季節感が感じられる利用者の作品飾られていた。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者それぞれが家族と相談し、ダンス・ソファ・テレビ・仏壇など、好みや馴染みのある物品が置かれている。家族の写真・趣味の道具・カーペットが持ち込まれ、その人らしさがあり、安心して過ごせる環境づくりがなされている。各部屋のレースカーテンは季節感への配慮が感じられた。		